

くじゅう地区管理運営協議会

平成30年度 活動報告



目次

I. 長者原ビジターセンター等運営管理業務	
1. 長者原ビジターセンター利用状況	2
(1) 入館者数	2
(2) ハイビジョン映像上映回数	3
2. 利用案内と展示・自然ふれあい事業	4
(1) 利用案内と国際化	4
(2) 館内展示および自然ふれあい事業	5
① 常設展示	5
② 企画展示	9
③ 自然ふれあい事業	10
a) タデ原の自然観察会	10
b) タデ原のミニガイドウォーク及び 国立公園レクチャー	11
c) 視察研修対応	12
④ 館内維持管理業務	13
3. 来館者アンケート結果	14
II. 教育・普及啓発活動	
1. 普及啓発活動	15
(1) 各種イベント	15
(2) 広報活動	16
2. 環境教育活動	23
III. 自然環境保全・調査活動	
1. 自然環境保全活動	26
2. 調査活動	27
IV. 登山道等管理活動	
1. 登山道保全活動	28
2. 長者原周辺の美化清掃活動	29
V. その他	
1. くじゅうファンクラブ賛助会員・寄付制度	30
2. タデ原における有償ガイドプログラム作り検討会議	30
3. 職員研修実績	31
4. 新聞掲載記事	32
5. 地域の概要	33
6. 運営体制	34

I. 長者原ビジターセンター等運営管理業務

1. 長者原ビジターセンター利用状況

(1) 入館者数

- ・平成30年度の来館者数は、123,337人であった（前年度比：約2%増）。
- ・平成28年4月に発生した熊本地震の影響が残っており、入館者数は平成27年度の13万2千人には至らなかったが、少しずつ回復傾向にある。5月～6月は、土日祝日のほかミヤマキリシマの開花時期に雨が多く、また、7月下旬～8月上旬は全国的な猛暑の影響で外出を控える傾向があり、来館者が伸び悩んだ。10月～11月にかけては週末ごとに天気の良い日が続いたため、来館者が増加した。1～2月は積雪がほとんどなく自家用車によるアクセスが比較的容易であったため、入館者が増加した。
- ・国立公園満喫プロジェクトを受けて、くじゅう地域の情報発信・案内業務の国際化（英語中心）に努めた。手作り展示も英語併記や英語解説シートを設置するなど、海外の人も楽しめるよう工夫した。インフォメーションカウンターで職員が目視により計数した外国人来館者数は、年間でおおよそ1,720名であり、来館者全体の1.4%であった。

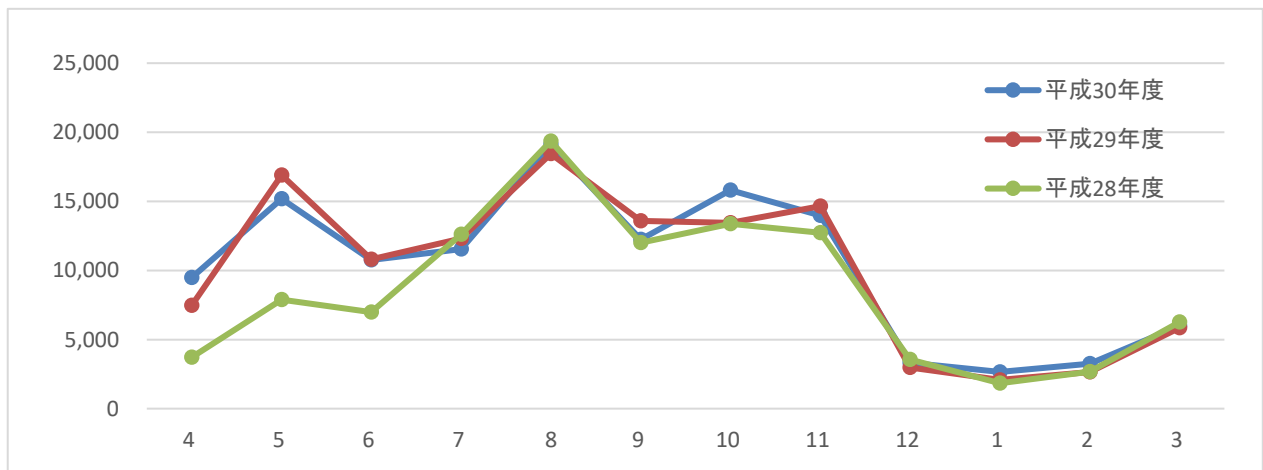


館内利用の様子

来館者数一覧表（平成28～30年度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	累計
平成30年度	9,482	15,179	10,759	11,536	19,103	12,252	15,820	13,986	3,315	2,657	3,262	5,986	123,337
平成29年度	7,472	16,905	10,798	12,310	18,444	13,596	13,438	14,658	2,964	2,082	2,650	5,846	121,163
平成28年度	3,708	7,881	6,992	12,611	19,363	12,016	13,380	12,734	3,549	1,839	2,675	6,271	103,019

来館者数推移（平成28～30年度）



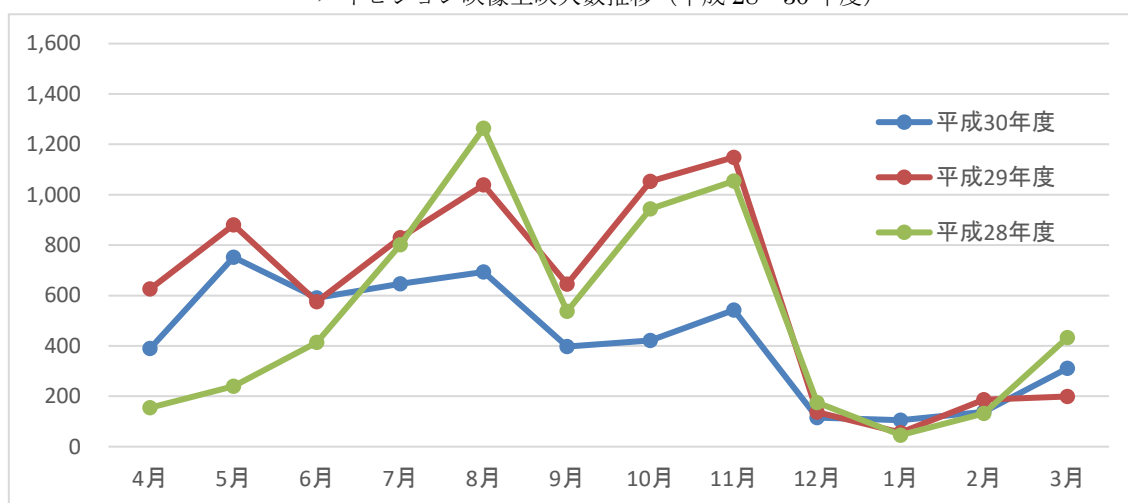
(2) ハイビジョン映像上映回数

- ・平成 30 年度ハイビジョン映像上映回数は 659 回、延べ人数は 5,103 人であった（前年度比：約 30%減）。
- ・外国語字幕での上映は、英語と台湾語についてはやや増加したが、昨年度 408 名の利用があった韓国語は今年度 182 名と大きく減少した。

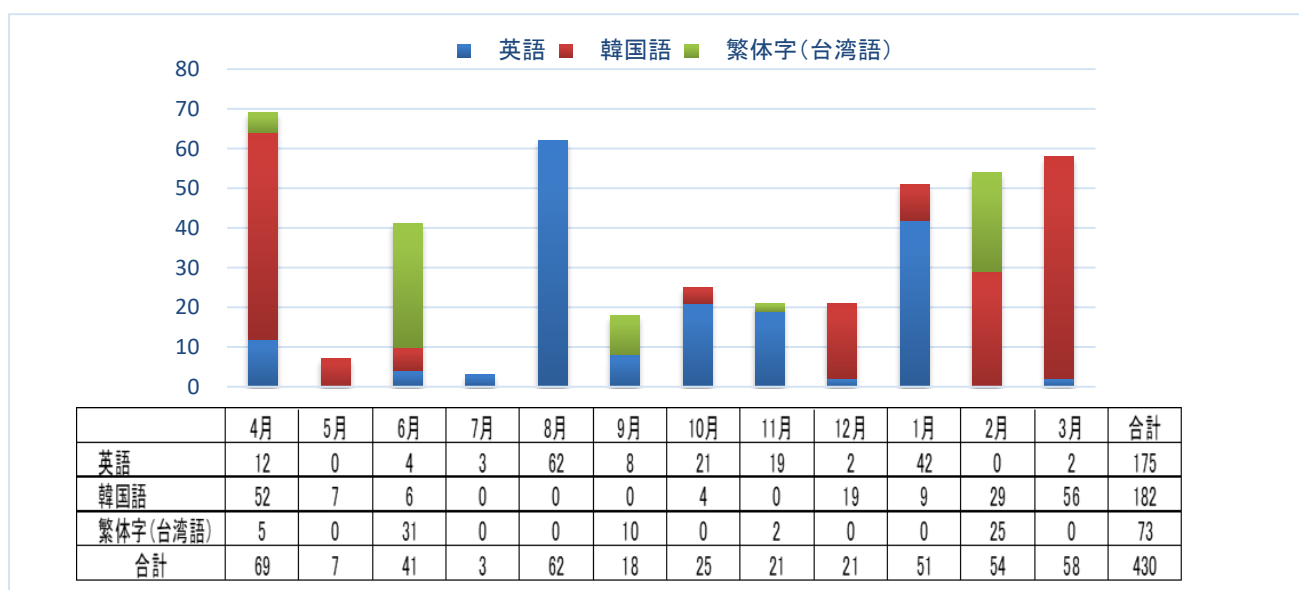
ハイビジョン映像上映人数一覧表（平成 28 ～ 30 年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
平成30年度	390	752	590	647	694	397	422	542	115	105	138	311	5,103
平成29年度	626	880	575	829	1,039	645	1,053	1,149	137	56	187	199	7,375
平成28年度	155	240	414	802	1,264	537	944	1,054	175	46	132	433	6,196

ハイビジョン映像上映人数推移（平成 28～30 年度）



外国語上映人数内訳（平成 30 年度）



2. 利用案内と展示・自然ふれあい事業

(1) 利用案内と国際化

- ・長者原ビジターセンター受付カウンターにて、国立公園の利用案内および自然情報等の提供をおこなった。
- ・英語での利用案内・解説ができる自然解説員を、週3日以上配置し、利用案内の国際化に努めた。
- ・受付カウンターに英語での対応ができることの他、筆談でも案内できることを表示した。
- ・登山道案内をわかりやすくするために、登山道の状況を写真でつづった登山道案内シートを作成・利用した。
- ・英語でのミニガイドウォークもできることを掲示し、実施した。
- ・子どもでも楽しめるような館内アクティビティ（クイズラリー・スタンプラリー・足跡探し等）を設置し、英語版も提供した。



受付カウンターでの利用案内の様子



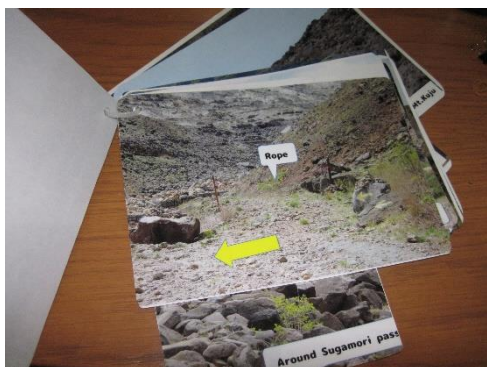
くじゅう連山自然情報



外国人に対する利用案内の様子



多言語対応が可能なことを受付に掲示



登山道案内シート



ミニガイドウォークのお知らせ
(日本語・英語)

(2) 館内展示および自然ふれあい事業

① 常設展示

・下記の頻度で手作り展示を更新した。手作り展示や館内案内は英語併記をおこない、展示・案内の国際化に努めた。

展示内容		展示箇所	頻度
お知らせコーナー	写真①	2階入口付近	随時
くじゅうの自然写真館	写真②	2階受付付近	月2回
登山のルールとマナー	写真③	2階受付付近	年7回
観光情報コーナー	写真④	2階受付付近	年4回
展望コーナー	写真⑤	2階展望スペース	随時
くじゅう連山自然情報	写真⑥	2階受付付近	随時
実物展示	写真⑦	2階受付付近	随時
ハンズオンコーナー	写真⑧	1階壁面付近	月1回
ワークテーブル	写真⑨	1階及び2階	年5回
くじゅう植物図録	写真⑩	1階野焼きコーナー横	随時
タデ原フィールドガイド	写真⑪	1階入口付近	月2回
キッズコーナー	写真⑫	1階階段横	随時
くじゅうの自然を支える活動	写真⑬	階段ボード	年4回
モニタリングサイト1000里地調査紹介	写真⑭	階段ボード	年4回
チームタデ原活動紹介	写真⑮	階段ボード	年5回

デジタルセンター2階

・2階はメイン入口となっており、来館者の出入りも多いため、自然に関する情報および登山道情報を提供したり、展望を利用した休憩スペースを設置したりしている。また、観光利用者や登山初心者向けに、登山の服装等のマナーや、周辺地域の観光情報等もわかりやすく紹介している。



① お知らせコーナー

センターからのお知らせ等を掲示した。



② くじゅうの自然写真館

くじゅう地域の旬な風景や生きものの写真を展示した。



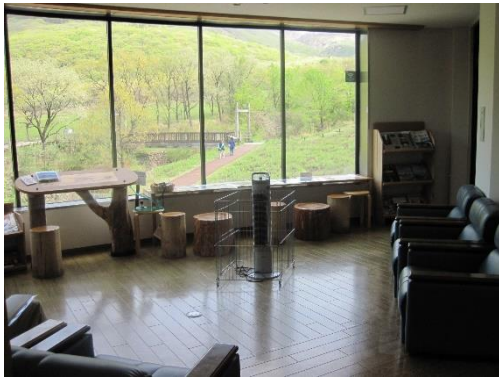
③ 登山のルールとマナー

登山の初心者向けに、季節ごとの登山の服装や、注意点などの説明をした。



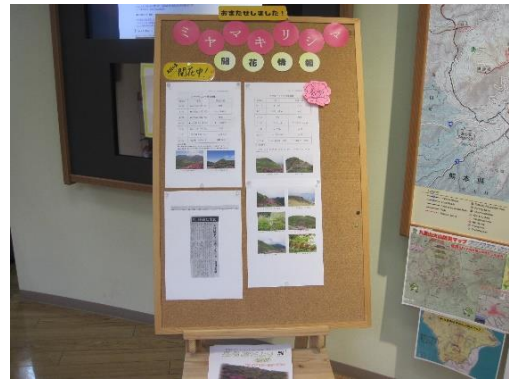
④ 観光情報コーナー

国立公園周辺の見どころ等を、カケスマップ(周辺観光マップ)や写真などを使って紹介した。



⑤ 展望コーナー

雄大な景色を眺めながらゆっくりできるコーナー。書籍や新聞を置いて、ソファに座ってくつろいでもらえるようにした。



⑥ くじゅう連山自然情報

マンサクやミヤマキリシマの開花情報、紅葉情報など問い合わせの多いものを館内に掲示した。



⑦-1 実物展示

カヤネズミや、クサボケの実などの実物を置き、来館者が季節を感じたり、小さな発見をしたりできるコーナーを設置した。特にカヤネズミの実物展示は来館者が立ち止まって観察する様子が見られ、楽しんでた（大分県鳥獣の捕獲に関する届出済。捕獲は国立公園外で実施。）



⑦-2 実物展示

ビジターセンター1階

・1階は、滞在時間が十分にある来館者が多く、タデ原湿原木道やくじゅう連山登山道につながる出入口となっているため、タデ原やくじゅう連山についての詳しい自然解説内容を展示した。



⑧ ハンズオンコーナー

実物に触ってみることが出来るハンズオンコーナー。くじゅうに生息する動物の剥製や鳥の巣、紅葉の情報、マンサクの花のつくりなどを紹介した。



⑨ ワークテーブル

来館者参加型の展示。新緑の葉っぱ作りや、昆虫の切り絵、七夕飾り作りなどを行った。子どもから大人まで楽しそうに工作していた。



⑩ くじゅうの植物図録

くじゅう地域のボランティア団体、「九重の自然を守る会」が作成した植物図録を、職員が季節ごとに入れ替えて展示した。



⑪ タデ原フィールドガイド

今見られる植物や動物などを、楽しみ方の幅を広げる職員手づくりの解説付きで紹介した。



⑫ キッズコーナー

自然関係の絵本やパズルなどを置き、子どもや親子連れがゆっくり遊べるコーナーにした。

階段

・2階の入り口から入ってきた来館者が、タデ原湿原や館内トイレに向かう動線上に階段があり、多くの来館者が自然と展示を目にする場所であることから、くじゅうで行われている自然保護活動等を普及啓発する内容を展示した。



⑬ くじゅうの自然を支える活動

「飯田高原野焼き実行委員会」による野焼きや「パークボランティアの会」の活動、登山道整備活動など、くじゅう連山で行われた自然保護活動を紹介した。



⑭ モニタリングサイト 1000

「九重の自然を守る会」がタデ原で行っている植物モニタリング調査の様子を紹介した。



⑮ チームタデ原活動紹介

九重町の小中学生が参加する「チームタデ原」の活動を紹介した。

クイズラリー・スタンプラリー

- ・来館者が目的をもって展示を楽しめるように企画したアクティビティ。特に、子どもたちが喜んで参加していた。参加者数はクイズラリーが 789 人、スタンプラリーが 1,506 人。
- ・学校や青少年団体利用者にとっても喜ばれた。
- ・シートは日本語と英語の 2 種類を用意した。
- ・できたものを受付でチェックし、オリジナルシールをプレゼントした。



クイズラリー・スタンプラリー
シート配布の様子



スタンプラリーの台 (全 6 か所)



クイズラリー・スタンプラリーの参加者の様子

展示の国際化対応

- ・手づくり展示については英語での解説を作成し、国際化への対応に努めた。



② 企画展示

「ギンリョウソウはなぜツツジ科になったのか？」

実施期間：平成 30 年月 5 月～平成 30 年 7 月



ミヤマキリシマの時期に合わせて、同じツツジ科であるギンリョウソウについて紹介した企画展示。ギンリョウソウの分類上の特徴と分類群の変遷をパネルにて解説し、英語での解説も記載した。あわせて、くじゅう連山で見られるツツジ科の花の紹介も写真と解説をつけて展示した。

来館者は興味深く解説を読んでいた。またいろいろなツツジ科の植物の写真と解説を眺めながら、展示を楽しんでいた。

「くじゅう MVP～くじゅうで1番の山を選ぼう～」

実施期間：平成 30 年 7 月～平成 30 年 9 月



くじゅう連山の山々を紹介する企画展示。山の名前の由来や登山ルートを紹介を行った。また、くじゅう連山の中で好きな山を選んだり山の思い出を書いたりするアンケート用紙も準備した。来館者は、じっくり展示を眺めながら、アンケートにも答えてくれた。

「くじゅうのキノコ展」

実施期間：平成 30 年 9 月～平成 30 年 11 月



くじゅう連山周辺で見られるきのこを紹介した企画展示。大分きのこ会の協力により作成した。写真と一緒に詳しい解説も展示したので、来館者はじっくり解説をみながら興味を持って眺めていた。

「くじゅう MVP 結果発表」

実施期間：平成 30 年 12 月～平成 31 年 3 月



夏にくじゅう連山の山々を紹介する企画展示をおこなった際に、好きな山と思い出についてのアンケート調査も一緒に実施し、その結果を発表する展示をした。

2019年に登りたい山にシールをはる欄を設け、多くの人が解説を読んでシールをはっていた。

③ 自然ふれあい事業

a) タゲ原の自然観察会

- ・平成 30 年度の自然観察会開催回数は 56 回、参加者数は延べ 861 人。(前年度比：約 36%増)
- ・九重の自然を守る会の会員がボランティアガイドをおこなう。参加費は無料。
- ・近年は団体参加者よりも個人参加者が増える傾向にあるようだ。

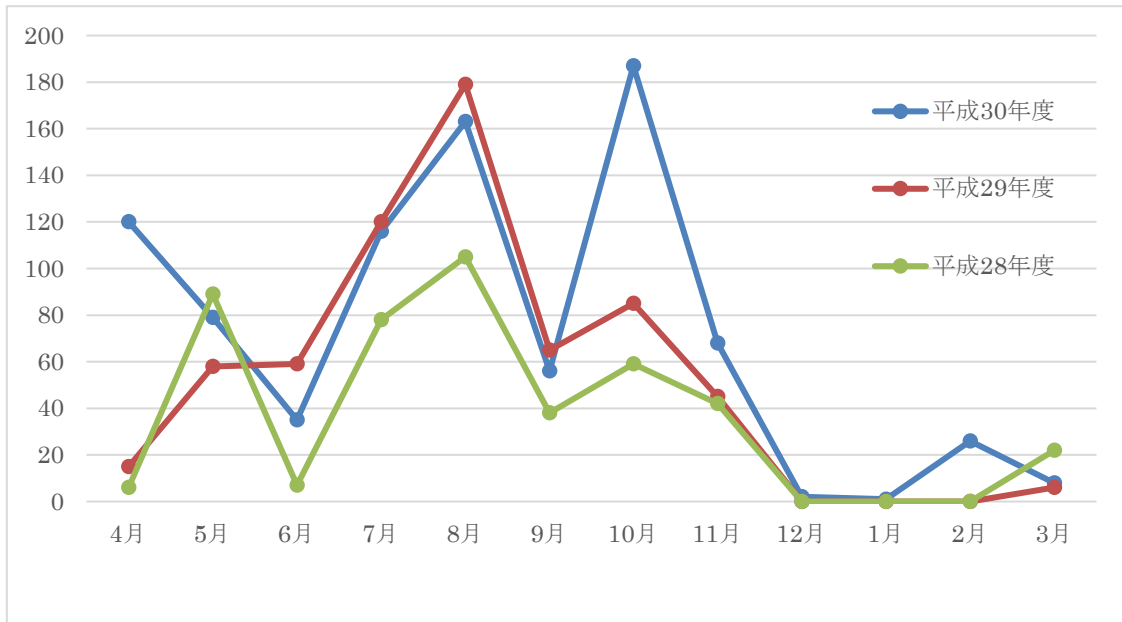


自然観察会の様子

自然観察会参加者数一覧（平成 28～30 年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
平成30年度	120	79	35	116	163	56	187	68	2	1	26	8	861
平成29年度	15	58	59	120	179	65	85	45	0	0	0	6	632
平成28年度	6	89	7	78	105	38	59	42	0	0	0	22	446

自然観察会参加者数推移（平成 28～30 年度）



b) タデ原のミニガイドウォーク及び国立公園レクチャー

タデ原のミニガイドウォーク

- ・ビジターセンター職員がタデ原を約 30 分で案内するもの。参加費は 100 円。
 ビジターセンター開館日の毎日 11：00～と 14：00～の 2 回開催。
- ・今年度の開催数は 62 回、利用者延べ 201 人（前年度比：約 44%増）。外国人の利用者にも英語で対応した（2 回、4 名）。



タデ原のミニガイドウォークの様子

国立公園レクチャー

- ・ビジターセンターを利用する学校や団体に対し、ビジターセンター職員が国立公園やタデ原湿原について解説を行うもの。参加人数等に応じて、15～30分程度のレクチャーを行った。
- ・国立公園レクチャーの受け入れ回数は11回、利用者延べ822人。（前年度比52%減）
- ・昨年度に比べると、団体での国立公園レクチャー依頼が減少した。今後は広報に力を入れていきたい。



国立公園レクチャーの様子



英語での国立公園レクチャーの様子

平成30年度 国立公園レクチャー一覧

日にち	曜日	概要	参加者
4月10日	火	フェリーさんふらわー歌声ツアー	40
4月19日	木	大分県立中津南高等学校	210
5月17日	木	国東市国東中学校	71
5月18日	金	豊後大野市大野中学校	25
5月18日	金	日田市立南部中学校	55
6月16日	土	九重町立飯田小学校	20
7月10日	火	坂ノ市楽遊会	25
7月17日	火	東久留米市立久留米中学校	128
8月12日	日	イギリスセントポールズ高校	50
8月25日	土	福岡県築上町立椎田学校	78
10月13日	土	大分大学国際交流事業	120
合計			822

c) 視察研修対応

- ・行政機関をはじめとする関係者の視察等の受け入れを随時行い、職員が館内展示や阿蘇くじゅう国立公園、タデ原の自然環境などについて解説をおこなった。
- ・関係機関からの視察が多かった。
- ・平成30年度の受け入れ回数は6回、利用者数は延べ92人。



国立公園満喫プロジェクト 視察
(阿蘇くじゅう国立公園有識者会議委員)



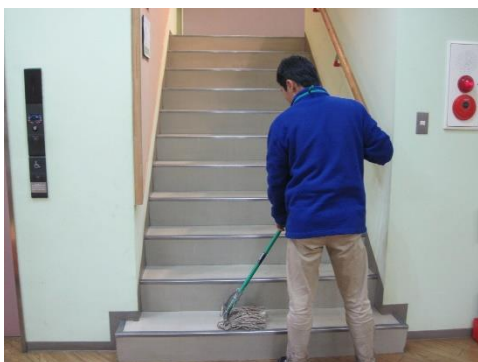
雲仙諏訪の池ビジターセンター 視察

平成 30 年度視察研修受け入れ事業一覧

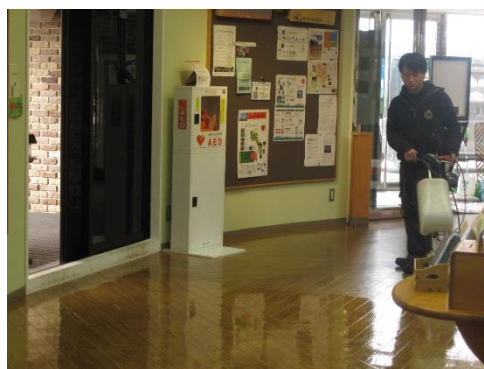
日にち	曜日	概要	参加者
6月4日	月	阿蘇くじゅう国立公園有識者会議委員	9
8月4日	土	荒尾干潟ビジターセンター	19
9月12日	水	雲仙諏訪の池ビジターセンター	3
10月11日	木	九州各県支援保護主管課長会議	20
11月26日	月	ツーリズム商談会	9
11月28日	水	JTB社員 自然公園財団阿蘇支部	32
合計			92

④ 館内維持管理業務

- ・ビジターセンター館内は、閉館後にゴミ拾い、床のモップがけ、館内トイレ清掃を毎日実施した。
- ・年1回の清掃業者による特別清掃（ワックスがけ等）を、2月に実施した。



日常清掃の様子



特別清掃の様子

3. 来館者アンケート結果

平成30年5月1日～5日、10月23日～11月8日に来館者アンケートを実施し、合計149名から回答を得た。

(1) 回答者について

福岡県	大分県	熊本県	九州中四国	関西	中部以東
38.3%	22.8%	6.7%	14.1%	9.4%	8.7%

20歳未満	20歳～39歳	40歳～49歳	60歳以上
12.2%	14.2%	28.4%	45.3%

(2) 長者原を訪れた目的【複数回答】

タデ原の散策	登山	偶然通りがかった	ビジターセンター	ツアーの一部	その他
51.0%	16.8%	14.8%	12.1%	10.7%	6.0%

(3) 来館回数

はじめて	2～3回目	4～5回目	6回以上
54.7%	17.0%	9.4%	18.9%

(4) 展示内容について

たいへん満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
63.4%	29.6%	7.1%	0%	0%

(5) 職員の対応について

たいへん満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
67.1%	21.2%	11.8%	0%	0%

(6) 館内の設備について

たいへん満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
64.0%	26.2%	9.7%	0%	0%

(7) よかった展示について（上位6つのみ）【複数回答】

2F 自然写真館	2F 展望室	2F 企画展(きのこ)	1F ハンズオン(紅葉)	2F 登山情報	1F 航空写真
47.6%	40.5%	35.7%	28.6%	28.6%	24.0%

(8) 回答者のコメント（重複した内容のものは省略）

綺麗な施設で驚きました。色々と楽しめました。 / 思いかけずためになった / クイズ、スタンプラリーがありおもしろかった / 四季折々の様子をわかりやすく表現したシアターがとても良く勉強になりました。 / くじゅうの植物、動物がよくわかりました。 / 豊富な資料、情報がありよかった / 車椅子で移動ができ楽しめた / 駐車場が狭い / 展望コーナーでくつろげ山の本が充実していて良かった / ミヤマキリシマの写真に「くじゅうに来た」という思いがしてとてもいい / 日々のタデ原の様子がわかりやすく示され毎回楽しみです。ミニガイドウォーク、いい時間が過ぎました。 / 野焼きを初めて知り勉強になりました / 絵はがきの種類を増やしてもらいたい / ビジターで提供している情報が載った説明ブックの販売があってほしい / 香りのコーナーがあるのならばアロマの販売もあると良い / タデ原湿原を散歩したあとに休憩を兼ねて立ち寄り、館内でいろんな知識を得ました。 / 見晴らしが最高で、きれいに清掃してあります。 / むかし登山していたのでビジターセンターは知っていましたが、立ち寄ってゆっくり見たのは2回目かと。自然が素敵でした。 / また登山時に利用させていただきます。 / 次回はフェイスブックを見てゆっくり来たいと思います。

II. 教育・普及啓発活動

1. 普及啓発活動

(1) 各種イベント

牧ノ戸峠 登山ミニレクチャー

開催日時：平成30年 6月3日（日）7:30～9:30

10月28日（日）7:30～9:30

場所：牧ノ戸峠登山口

- ・公園利用者への適切な利用促進の一環として、くじゅう連山最大の登山口として利用されている牧ノ戸峠登山口において、「登山ミニレクチャー」を実施し、登山者に対する公園利用マナーの普及啓発をおこなった。
- ・呼びかけた内容は、服装点検、持ち物確認、登山届の提出、登山道の歩き方（植生保護のため）、ゴミの持ち帰り、下山時刻の確認、山のトイレの利用方法など。同時に登山届を提出するコーナーを設け、登山届の提出を促したほか、スタッフが登山コースの相談にのった。
- ・今年度は、ミヤマキリシマ繁忙期、紅葉繁忙期に各1回実施した。
- ・ビジターセンター職員のほか、環境省くじゅう管理官事務所、大分県警察本部、大分県自然保護推進室、九重ふるさと自然学校、くじゅうネイチャーガイドクラブの協力があり、各回4～7名体制で呼びかけを行うことができた。
- ・登山届提出を呼びかけることにより、登山計画の不備や、登山地図・ストックキャップ等の準備不足などについてアドバイスをすることができ、安全・適切な登山マナーの認識の向上につながった。



登山届を記入する登山者（6月）



呼びかけのようす（11月）

(2) 広報活動

① くじゅうファンクラブ（くじゅう地区管理運営協議会）ホームページ

平成 30 年度「最新情報」更新回数 23 回

- 平成 28 年度に立ち上げたホームページ上で、くじゅうについての様々な情報提供をおこなった。「最新情報」のコーナーでは、長者原ビジターセンターからのお知らせのほか、登山道整備活動等の協議会事業の報告や大分県主催の「山のトイレをきれいに使い隊運動」など、くじゅうを守る活動等について紹介した。



② くじゅうファンクラブ フェイスブック

平成 30 年度投稿回数：98 回

- くじゅう地区の最新の情報を幅広く提供することを目的に、フェイスブックに情報を掲載した。
- フォロワーの人数は、年度当初の 3,712 人から平成 31 年 3 月末には 4,076 人へ 9%増加した。各地のビジターセンターのフェイスブックページでは最大のフォロワー数となっている。
- ミヤマキリシマの開花情報、紅葉情報の時期にリーチ数が多く、最大 3,934 回に達した。
- 英語のコメントを併記することで、外国人からの反応も見られた。



③ くじゅうファンクラブ インスタグラム

平成 30 年度投稿回数：51 回

- ・くじゅう地区の美しい写真を通じて、国内外で幅広くくじゅう地区に関心を持ってもらうために、インスタグラムへの投稿を実施した。
- ・閲覧者が増加し、フォロワー数が 481 人となった。(前年度比 210%)
- ・英語のハッシュタグをつけるだけでなく、英語でのコメントを併記したことで、外国人利用者からもいいね！の反応があった。くじゅうについての認知度を国内外に高めるために役立ったと考えられる。



④ 「くじゅうだより(旧 長者原だより)」の発行

- ・くじゅうの自然をより深く理解してもらうことを目的に、年 4 回発行した。ビジターセンター内で配布するほか、くじゅう地区管理運営協議会の各会員施設でも配布した。
- ・広くくじゅうエリアを紹介する機関紙であることから、夏号よりこれまでの「長者原だより」から「くじゅうだより」へと名称を変更した。
- ・多くの散策道や登山道に興味を持ってもらえるよう、コース紹介を積極的に行った。

阿蘇くじゅう国立公園 長者原ビジターセンターからお届けする

長者原だより

TAKE FREE!

くじゅうを 歩こう!

赤川登山口から 久住山に登ってみよう! 編

2018 春号

表紙写真：赤川登山口から見た久住山

くじゅうファンクラブ活動情報

皆さまのご支援で、こんな活動をしています。

※平成28年1月1日より、「くじゅう地区管理運営協議会」の運営体制が、「くじゅうファンクラブ」となりました。

教育・普及啓発

自然環境 保全・調査

登山道等 維持管理

チームタデ原、冬のタデ原観察をおこないました!

タデ原について学び、発信することを目的に結成されたチームタデ原(九重町の小学生11名在籍)。2月24日に、冬のタデ原観察会と、去年設置したセンサーカメラの回収を行いました。センサーカメラは、動物の営巣と自然を撮影してくれているカメラです。センサーカメラを外すと、作っている本人の姿もカメラに写って、あとで見て大喜び。そして、林の中に設置したセンサーカメラは、ほんとうにたくさんの動物が写っていて、みんなびっくり。シカ、イノシシ、ウサギ、タヌキ、キジなどがタデ原とまわりの森で暮らしていることがわかりました。森の中でも元気に走り回っているんですね。近年、日本のいろいろな場所でシカやイノシシが増えるという報告が出ています。くじゅうでも、木の皮が剥がれたり、貴重な植物が食べられたり、登山道が崩壊されたりと報告が多くなっています。自然界のバランスや人間とのかかわりなどについても考えさせられた、センサーカメラ調査でした。

登山道の道標を整備しています!

くじゅうファンクラブでは、関係者の意見を伺いながら、古くなった登山道の道標や山標を新しいものに交換しています。平成28年度は、おがひし、北上平、常陸付近、中高山の4の所で老朽化した道標の撤去と交換を終えました。道標の種類も異なります。石が割れた箇所も交換して立てるのも簡単な作業ではありません。現在、協議会委員の皆さんの協力をお願いして、平成30年3月から順次交換していきます。柱にくじゅう地区管理運営協議会と書かれた道標は、資金面・作業面の両方で、くじゅうファンクラブに関わる皆様のご協力をお願いして立てられています。ご協力に感謝するとともに、この道標が登山のお役に立てるよう願っています。

お知らせ～森の中の自然観察路が新しくなりました!

タデ原自然観察路のうち、森の中のコースの整備が昨年行われていたが、3月下旬に新しく出来るようになりました。コースの入り口にはタデ原を一望できる展望デッキも整備され、これまでに以上に整備を施したようになっています。森の中のみならず、春の新緑、夏の森林浴、秋の紅葉といっしょにも楽しめます。これからタデ原は自然観察の季節になります。森の中のコースにもぜひ来てみてください。参考データ：距離/タデ原までの木道とあわせて約2.5km 時間/のんびり歩いて約1時間

タデ原・赤川水・大町軍などで野焼きを行いました!

数回高野野焼き実行委員会の主催で、今年も赤川水・出間の野焼きが行われました。大町軍やまなみ道路沿いで3月25日、タデ原・赤川水は4月1日の実施でした。野焼きの日には天候にも左右されます。今年は3月20日朝前に雨の雨が続き、火つけられなかった野焼きになりました。野焼きは、火つけ後と火消し後がセットで動きます。もうすぐ春と秋のふたつ、木の入り口のファンクラブを再訪して頂く火消しは、危険な場所から野焼き行動です。では、何のためか、安全な野焼き行動をするのではありませんか。雨の多い日本では、草原は、放置すると森林になってしまいます。阿蘇くじゅうに見られる広大な草原は、人の営みのたまものです。詳しくはビジターセンター1階の展示でわかりやすく紹介しています。野焼きについての紹介動画もありますので、ぜひご覧ください。

タデ原の自然観察会

※参加費無料/申し込み不要(個人の場合) <参加費100円/季節申込不要(個人の場合)> 九重の自然を学ぶ会(自然観察会)による。高野のイベント。毎週日曜/夜10:00～12:00に開催しています。参加希望の方は10時までに、直接ビジターセンターへお申し込みください。学校などの団体の観察会は、平日も可能な範囲で受け付けていますので、ご相談ください。

阿蘇くじゅう国立公園 久住山ミニガイドウォーク

※参加費100円/季節申込不要(個人の場合) > 11:00～14:00(0127組) センター職員が久住山を約30分でご案内。途中に中止し山道合流もある。参加希望の場合は、事前にお問い合わせください。

阿蘇くじゅう国立公園 久住山ミニガイドウォーク

※参加費100円/季節申込不要(個人の場合) > 11:00～14:00(0127組) センター職員が久住山を約30分でご案内。途中に中止し山道合流もある。参加希望の場合は、事前にお問い合わせください。

くじゅうファンクラブ賛助会員・寄付書集中!

くじゅうファンクラブでは、上記のような教育普及・普及啓発、自然環境保全・調査活動、登山道等管理運営を実施しています。活動に期間をいただく賛助会員(個人/団体)や寄付者(個人/団体)の方には、感謝状の発行を行っています。賛助会員の方には、会員証の発行のほか、毎月のプレゼント(お楽しみ会などの特典)を用意しています。詳しくはくじゅうファンクラブホームページ(左欄)のホームページをご覧ください。

長者原だより 2018春号

発行元：くじゅうファンクラブ (くじゅう地区管理運営協議会) 879-4011 大分県玖珠郡九重町大字久住2-33 長者原ビジターセンター TEL & FAX 0973-79-2154 くじゅうファンクラブホームページ: <http://kjjcfclub.com/>

くじゅうファンクラブ

くじゅうファンクラブでは、上記のような教育普及・普及啓発、自然環境保全・調査活動、登山道等管理運営を実施しています。活動に期間をいただく賛助会員(個人/団体)や寄付者(個人/団体)の方には、感謝状の発行を行っています。賛助会員の方には、会員証の発行のほか、毎月のプレゼント(お楽しみ会などの特典)を用意しています。詳しくはくじゅうファンクラブホームページ(左欄)のホームページをご覧ください。

工事関係者にインタビュー

「工事にあたって最も苦労したことは何ですか。」「平成29年度の雨の影響により、工事が思うように進みませんでした。高低差が大きいため材料の運搬に苦労しました。」「あれだけの材料の運搬は大変ですよね。どうやって運んだのですか?」「荷負って木材を選びました。」「それはごくごく普通のことです!」では、この登山道を通る登山道の崩壊にひとことお願います。「久住山は、初夏のミヤマキリシマや秋の紅葉など、季節毎に様々な景色を楽しむことのできる大変魅力的な山です。ただ、一方で、登山には、急な天候の変化や転落・転倒等の危険があることを忘れてはいけません。安全に十分配慮をお願いしながら、登山道を満喫していただけますようお願いいたします。」この登山道を管理している、大分県生活環境部自然保護推進室のご担当の方にうかがいました。ありがとうございました。

04 崩壊地を迂回し、新しい階段へ

以前から深くくえられた歩みにくい道でしたが、平成28年の熊本地震の影響で崩壊し、修復工事が行われました。昨年12月にあたらしく開通したばかりです。新しい道は、はじめ右下に下ってから、以前の登山道をやや東に迂回する形で登ります。急峻なところは変わりませんが、階段が設置されて格段に歩きやすくなりました!



標高1786.5m

久住山に登ろう!

深田久弥は、著書「日本百名山」で、くじゅうを「久住独逸国ではなく九重共和国」と解説したうえで、「何といても品格のあるのは久住山である。さすが九重一族の長たるに恥じない。」とたたえています。久住山の魅力は、山頂からの雄大な眺めや登山道沿いの可憐な花々などがあげられますが、一つにしろことはむずかしいかもしれませんね。久住山は、ミヤマキリシマの平治岳や紅葉の大船山のように特定の季節に人が集まるのではなく、一年を通して多くの人を迎え入れる山の深さをもった山ではないでしょうか。久住山へは、各方面から登山道があります。最も利用が多いのは牧ノ戸峠からでしょう。一方、最も距離の短い赤川登山口からの道は、昨年12月に復旧工事が終わりを、新しくなりました。この春〜初夏はいつもと違ったルートから久住山を目指してみませんか。

05 ミヤマキリシマの間を久住山頂へ

登山道はいよいよ急になっていきます。岩をよじ登るような場所もありますが、6月上旬道であれば満開のミヤマキリシマが踏みまわってくれます。稲星山方面からの道と合流すると、左へ進むと山頂へ到着! 眼下には荒々しい破火山口の噴気活動が見下ろせ、由布や雲仙まで見渡せます。お疲れさまでした!



01 赤川登山口

国道442号から赤川温泉方面へ入ります。およそ1.5kmで駐車場とトイレのある赤川登山口。準備運動をして登山服を記入したら、ゆっくり歩き始めましょう。



安全な登山のために必ずお読みください!

赤川〜久住山のルートは、久住山への最短距離ですが、距離が短いことは他のルートに比べて急であるということ。安全な登山のために、次の注意事項を必ずお読みください。
●登山届は必ず提出! 登山口で届出と提出箱があります。あらかじめ計画を立てて登ります。また、計画を必ずその人などに伝えておくことも大切です。
●早めの行動! 途中で暗くなってしまわないように、余裕をもって早めに出発しましょう。このコースで午後になってからの入山は危険です。
●雨具、ライト、地図、非常食、防寒着を携行! 雨は降りませんが、晴くならぬうちに降るから、夕ご飯は食べておきたいというつもりでも、いざというときに対応できるように準備を。
●思ったよりも遅い! 想定よりも時間がかかった、といったときは、早く山頂をあきらめて引き返しましょう。山は逃げません。

下山はどのルート?

久住山からは、登山道がいろいろな方向についています。どの道で帰るかは、あらかじめ決めておきましょう。(時間は目安です。個人差があります。)
A 来た道を引き返す 阿蘇や祖母嶺の眺めを楽しみながら下ります。山頂〜赤川登山口:約1時間30分
B 藤ヶ鼻を通る周回コースで赤川へ 標高1698mのミヤマキリシマの名所・藤ヶ鼻を経由してもの赤川登山口に戻ります。山頂〜藤ヶ鼻〜赤川登山口:約2時間20分
C 久住分れを通って牧ノ戸峠へ 西千ヶ瀬をのんびり歩いて牧ノ戸へ。牧ノ戸峠には由布院、熊本、九重町方面へのバス停があります。山頂〜牧ノ戸峠:約1時間35分
D 護国寺を越えて長者原へ 破火山口の噴煙を眺めながら岩の道を下ります。タデ原原路〜長者原に到着です。山頂〜長者原登山口:約2時間20分
E 神明水から南登山口へ 神明水の水場を経て久住高原へ、くじゅう公園の前に出ます。山頂〜南登山口:約2時間40分

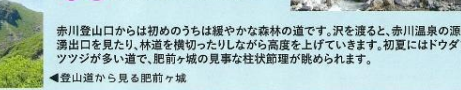
02 沢を渡って 温泉湧出口

▲木の橋で沢を渡ります 湧出口周辺の独特の景観



03 林道を横切る

赤川登山口からは最初のうちは緩やかな森林の道です。沢を渡ると、赤川温泉の源泉湧出口を見たり、林道を横切ったりしながら高度を上げていきます。初夏にはドウタンツツジが多い道で、肥前ヶ城の異様な状況が眺められます。▲登山道から見る肥前ヶ城



阿蘇くじゅう国立公園 長者原ビジターセンターからお届けする

くじゅうだより

TAKE FREE!

くじゅうを歩こう!

大船山観光登山バスを利用して
大船山に登ろう 編

2018 秋号

表紙写真:大船山段原の紅葉(松原博行提供)

くじゅうファンクラブ活動情報

皆さまのご支援で、こんな活動をしています。

山のトレイをキレイに使い跡運動に参加しました!

7月19日に大分県主催「山のトレイをキレイに使い跡運動」に参加しました。この運動は、久住分かれにある山岳トレイを清潔に利用してもらうべく、普及と啓蒙を行うとともに、登山される方のご協力をいただき、トレイ洗浄用の水を各住分かれトレイまで運び、当該トレイを清掃する活動です。用意したペイントボールの水は40本(約2リットル)でしたが、そのほとんどを登山者の皆様の協力を得て、久住分かれトレイまで運搬・清掃することができました!久住分かれの山岳トレイはあくまでも緊急用のトレイです。登山の際は各分かれ、登山口で用意された水を必ず利用し、トレイはキレイに設置してある協力金ボックスに、積極的に協力をお願いいたします。

チームタデ原 タデ原のキッズガイドの実施や KODOMOラムサール自然保護公園に参加しました!

8月18日、地元九重町の小中学習からなる「チームタデ原」のメンバーが、今年度初めての活動として実施しました。その活動の目的は、タデ原の自然環境を学ぶとともに、自然環境の大切さを伝えること、また、タデ原の自然環境を学ぶとともに、自然環境の大切さを伝えること、また、タデ原の自然環境を学ぶとともに、自然環境の大切さを伝えること、

自然公園グリーン作戦が行われました!

9月1日に理事長 丸山剛正様、飯田真由美氏、自然公園グリーン作戦、行われました。この活動は自然公園の自然環境を改善し、自然公園の自然環境を改善し、自然公園の自然環境を改善し、自然公園の自然環境を改善し、自然公園の自然環境を改善し、自然公園の自然環境を改善し、

タデ原の植物相の調査を実施しています!

環境省・日本自然保護協会が取り組んでいる「モニタリングサイト1000(植物相)」では全国約200か所で行われる調査を行い、生物多様性を全国レベルでとらえることを目指しています。長者原ビジターセンターの目的にちなんで今年度も調査を実施し、くじゅうクワイルド1000登録地であり、毎月第3日曜日(11月22日)に九重の自然を守る会と連携して植物相の調査を行っています。調査の方法は、タデ原の自然環境を歩きながら、植物のつぼみ・花・実をそれぞれ記録していきます。これらの情報は、自然環境の環境変化や気候の影響などがわかる貴重なデータとなります。

危険な登山道の閉鎖・道標の交換について

くじゅう連山山岳連峰事故が多発していることを受けて、環境省・林野庁・大分県は、自然公園管理組合、関係団体から大船山に直登する危険ルートを開鎖しました。くじゅうファンクラブでも今年度の連絡対策事業として、管轄から頂いた支援により、くじゅう連山中の遊歩道した遊歩道の交換をすすめていく予定です。

タデ原ミニガイドウォーク

参加費100円/事前申込必要(個人の場合)
11:00~14:00の1日2回、センター職員がタデ原を約30分でご案内、都合よりの山の情報もあつた。お申し込みの際は、事前にお問い合せください。

阿蘇くじゅう国立公園・タデ原レクチャー

参加費無料/事前申込不要(個人の場合)
九重の自然を守る会のボランティアの方にも人気のイベント。毎月第1日曜日10:00~12:00に開催しています(12~2月は観望会)。参加希望の方は10時までに、自然公園センターへお申し込みください。学校などの団体の観望会は、事前にご相談ください。



くじゅうだより2018秋号

発行元:くじゅうファンクラブ
〒894-0911 大分県九重町長者原(阿蘇国立公園) 長者原ビジターセンター
TEL & FAX 0973-79-2154
くじゅうファンクラブホームページ: <http://kujufanclub.com/>

片道徒歩約2時間
大船山観光登山バス～池窪～大船山山頂

1,180m 1,786m

▲大船山山頂からの大パノラマ

Check!
大船山は6月上旬、ミヤマキリシマという高山植物が見ごろになる。「大船山のミヤマキリシマ群衆」として、国の天然記念物にも指定されている。

04 大船山山頂
大船山山頂は、約1時間30分ほど険しい登りが続きます。息をきりながら山頂にたどりつくこと、くじゅう連山が一望できる大パノラマ風景が広がり、山頂下での御池(おひけ)の湧りの紅葉の様子は距離のようで、また、山頂から見える遠方方面の紅葉も見えたりがあります。大船山山頂には、ツツシクワダなどのドウタンツツジの仲間やナカマド、オオカメノハなど、無茶飲に紅葉する樹種が多く、山一面が紅葉で彩られます。山頂の紅葉のピークは、例年10月中旬となっています。*年によって変動あり

03 入山公墓
池窪から40分ほど登ると、「入山公墓」の入口につきます。入山公墓は、同園第3代藩主であった中川久澄公(1615~1681)の墓所で、国指定の史跡です。久澄公は1662年没し、あびの川(久保川)のほとり、久保川に架かる大船山に葬られ、自然の霊を大船山に宿るように遺言を残したとされています。現在の墓所と周辺の遺構が残っており、往時をしのばせています。入山公墓に隣接して、パノラマ観望案内板も設置されており、同城方の展望を楽しむことができます!

02 池窪(登山バス終点)
池窪から40分ほど登ると、「入山公墓」の入口につきます。入山公墓は、同園第3代藩主であった中川久澄公(1615~1681)の墓所で、国指定の史跡です。久澄公は1662年没し、あびの川(久保川)のほとり、久保川に架かる大船山に葬られ、自然の霊を大船山に宿るように遺言を残したとされています。現在の墓所と周辺の遺構が残っており、往時をしのばせています。入山公墓に隣接して、パノラマ観望案内板も設置されており、同城方の展望を楽しむことができます!

01 パルクラブ(観光登山バス発着場)
バスは前日の12時までの事前予約制
○乗車料金 片道1,000円 往復1,800円
○その他、竹田市観光ツーリズム協会に旅行条件(バス利用条件)を確認のこと
○2018年の運行期間:4月28日~11月18日

*運行時間 1日3往復(1便につき定員18名)
*2018年10月11日現在

行き	帰り
午前7:30	午後2:00
午前8:30	午後3:00
午前9:30	午後4:00

観光登山バス利用の問合せ先
竹田市観光ツーリズム協会公久住支部
TEL:0974-76-1610

登山バスでパルクラブから池窪まで約20分。「牧野道をぐんぐんとバスで登っていきます。途中車窓から見える草原風景は絶景!天気よければ車窓から祖母山系をのぞくことができます。バスが降りたところから入山公墓は、標高約1180m。バスが降りており、降りたバスを予約した場合は、ここで待つことができます。これから大船山に向けて、登山開始です! *牧野道は金網のゲートがあるため、一部の車両及び登山(徒歩)での進入はできません。

⑤自然情報の提供

- 植物の開花や紅葉の進み具合を調べ、「自然情報」として館内に掲示するとともに、メーリングリスト登録者および近隣の観光案内所や施設に随時配布した。
- 今年度作成した自然情報は次の通り。
 - タデ原自然情報：4月から10月まで月2回、計13回
 - ツクシシャクナゲ開花情報：4月に1回
 - ミヤマキリシマ開花情報：5, 6月に7回
 - 紅葉情報：10, 11月に9回
 - マンサク開花情報：2, 3月に4回
- タデ原やくじゅう連山を訪れる人にとって役に立つ情報源となっている。今後もきめ細かな情報提供を心掛けながら継続していきたい。

タデ原湿原 自然情報 【2018/9/14】



↑ ミヤコアザミ 開花中



↑ アキノキリンソウ 開花中



↑ アケボノソウ 開花中



↑ ヒゴシオン 開花中



↑ ヤマアザミ 開花中



↑ オトギリソウ 開花中



↑ ツルニンジン 開花中



↑ ワレモコウ 開花中

— ガイドと一緒に、タデ原を歩くことができます！—

●タデ原の自然観察会
9月は毎週日曜・祝日 開催 10:00～(所要時間2時間)

●タデ原ミニガイドウォーク
毎日 開催 11:00～/14:00～(所要時間30分)、参加費100円
※都合により中止する場合があります。詳細はお問い合わせください。


長者原ビジターセンター (0973-79-2154)

平成30年10月21日
作成：くじゅう地区管理運営協議会
(くじゅうファンクラブ)

くじゅう連山 紅葉情報

調査日	場所	状態
10/20	★三俣山山頂周辺	色づいています
10/21	★星生山山頂周辺	色づいています
10/21	★肥前ヶ城斜面 (扇ヶ鼻山頂より)	色づいています
10/21	黒岳南側斜面 (今水周辺より)	色づいています

★ 登山者情報
10月21日 長者原周辺では、車のフロントガラスが凍っていました。朝晩の冷え込みが厳しく、紅葉が進んでいます。



10/20 三俣山山頂周辺



10/21 星生山山頂周辺



10/21 肥前ヶ城斜面
(扇ヶ鼻山頂より)



10/21 黒岳南側斜面
(今水周辺より)

2. 環境教育活動

「チームタデ原～ヒゴタイ子を守る会～」

- ・平成 27 年度にくじゅう地域で開催された KODOMO ラムサールをきっかけに、地元の小中学生で結成された自然保護活動グループ。現在のメンバーは中学生 3 名、小学生 10 名の計 13 名（今年度 2 名加入）。
- ・子どもが主体となった活動グループを目標とし、子どもたち自身で活動を計画・実行・振り返りをおこなっている。その活動のサポートを当協議会がおこなった。
- ・今年度は 2 ヶ月に 1 回のペースになるよう年間行事予定をたて、活動に取り組んだ。春のタデ原 1 周散策や夏にはタデ原にてキッズガイド、KODOMO ラムサール in 荒尾干潟への参加などの活動をおこなった。

平成 30 年度 「チームタデ原～ヒゴタイ子を守る会～」活動一覧

開催日		概要
4月1日	日	野焼き見学
5月20日	日	春のタデ原1周散策
6月16日	土	オオハンゴンソウ駆除活動
7月28日	土	ガイド練習と新聞作り
8月18日	土	タデ原のキッズガイドと川遊び
9月14日	金	夜のタデ原～秋の昆虫観察・星空観察～
9月23日～24日	日～月	KODOMOラムサールin荒尾干潟
11月25日	日	草よせ体験と森の自然観察
2月10日	日	飯田高原文化祭
3月23日	土	野焼き見学



春のタデ原 1 周散策の様子



キッズガイドの様子



タデ原の草よせの様子



KODOMO 湿地交流 in 荒尾干潟 干潟体験

KODOMO ラムサール湿地交流 in 荒尾干潟

- ・日本国際湿地連合および荒尾干潟保全・賢明利活用協議会が主催した、九州内の湿地で活動する小学生の交流事業。
- ・今年度は9月23日～9月24日に、熊本県荒尾市にあるラムサール条約登録湿地「荒尾干潟」にて、1泊2日でプログラムが行われ、チームタデ原から4名のメンバーを派遣した。
- ・九州各地から総勢20名の子どもが集まり、お互いの湿地紹介や荒尾干潟でフィールド体験を行い、KODOMO 会議を通して荒尾干潟の「6つの宝」を探した。
- ・参加したメンバーは、昨年参加した子どもが3名、初めて参加した子どもが1名だった。貴重な体験ができ、初めて参加した子どもも含めて積極的に活動していた。



荒尾干潟散策



マジック(アナジャコ)釣り体験



干潟の漁業についての説明



班別会議の様子



自主研修 筑後川昇開橋見学



完成したポスターと集合写真

総合学習支援活動

九重町及び竹田市で総合学習の支援活動を受け入れている。九重町立飯田小学校では、総合学習で各学年ともタデ原について学んでおり、講師の派遣やガイドの支援などを実施した。

○九重町立飯田小学校 6年生 6月28日、8月11日

6年生はタデ原についての学習の集大成として、夏休み期間中に一般のお客さんを案内するタデ原のキッズガイドをすることを目的に、伝えたいことやガイドの心得について学び、本番では一般のお客さんを案内する支援活動を行った。



○九重町立飯田小学校 4・5年生 12月19日

「地域で働く人たちを調べる」をテーマに、長者原周辺や長者原ビジターセンターで働く人について授業をおこなった。長者原ビジターセンターの役割や業務の実際について話をし、子ども達からの質問にも答えた。

Ⅲ. 自然環境保全・調査活動

1. 自然環境保全活動

(1) オオハンゴンソウの駆除活動

特定外来生物であるオオハンゴンソウがタデ原周辺でも増殖し、問題になっている。今年もくじゅう地区管理運営協議会の会員等と連携しながら、タデ原湿原と飯田高原周辺のオオハンゴンソウの駆除活動を実施した。

6月16日 オオハンゴンソウ駆除 飯田地区まちづくり協議会主催【職員が参加】

6月27日 オオハンゴンソウ駆除打ち合わせ会議【職員が出席】

7月22日 オオハンゴンソウ駆除 九重の自然を守る会主催【職員が参加】

10月3日 オオハンゴンソウ駆除（三井住友海上・あいおいニッセイ同和損保）

打ち合わせ会議【職員が出席】

11月4日 オオハンゴンソウ駆除 三井住友海上・あいおいニッセイ同和損保主催

【他団体とともに職員が指導】

その他随時、他団体によるオオハンゴンソウ駆除活動実施時に道具等の貸出を行った。



(2) 美化清掃活動

8月1日に実施された自然公園クリーン作戦等に協力し、美化意識の普及啓発を行ったほか、随時、長者原登山口や牧ノ戸峠登山口周辺のゴミ拾い活動を行った。ゴミには、たばこの吸い殻などが多くみられた。

(3) 野焼き活動

くじゅう地区では、草原景観の維持と希少種の保護などを目的に各地で野焼きが実行されている。協議会としては、飯田高原野焼き実行委員会の構成メンバーとして、次の野焼き活動の実施を支援した。

平成30年4月1日 泉水山・タデ原野焼き

平成31年3月23日 泉水山・タデ原野焼き

平成31年3月24日 大將軍野焼き



(4) 九重町自然環境保全推進委員会

九重町の自然環境保全推進委員会に委員として参加し、生物多様性ここのえ戦略の推進や、戦略に基づいた啓発事業の策定に協力した。

2. 調査活動

(1) モニタリングサイト 1000 里地調査

- ・環境省の「モニタリングサイト 1000 里地調査 植物相」にタデ原を登録し（調査主体：九重の自然を守る会）、平成 25 年度～平成 29 年度（5 年間）まで継続して調査を行った。平成 30 年度からは 2 期目に入り、これまで同様に 9 回（3～11 月に毎月 1 回）の調査を実施した。
- ・調査の事務局はビジターセンター職員が担い、調査データの整理、調査票の準備、調査結果の報告などの業務を行った。また、調査の様子を館内に展示することで、一般利用者にも活動内容を知ってもらうように努めた。



調査前の説明



調査のようす（湿原区間）



調査のようす（森林区間）

(2) 長者原地区植物保全協議会

大分県のやまなみハイウェイ拡幅工事に伴う長者原地区植物保全協議会に、委員として参加し、やまなみハイウェイ沿線の植物相のモニタリング調査及び工事方法について検討する会議に出席した。

IV. 登山道等管理活動

1. 登山道保全活動

(1) 登山道整備

- ・平成30年11月5日(月)、玖珠美山高校3年生の卒業記念として、くじゅう地区管理運営協議会会員と協力し、長者原～諏峨守越間の登山道保全整備活動を行った。

参加した生徒からは、「作業が大変だけれども、楽しい」等の感想があった。今後も会員の協力を得ながら登山道整備活動を継続していきたい。



登山道をふさぐ笹を刈る



土のうを置いていく



整備された登山道

- ・「くじゅうの自然に感謝する日」にあわせて、10月13日に竹田市久住町で行われた、久住高原みちくさ案内人倶楽部主催のタマボウキ自生地の草刈り作業に協力した。



(2) 道標・山頂標柱交換

- ・登山道の老朽化している道標について、新たに2基の補修・交換を行った。

本年度交換した道標および山頂標柱は次の通り。交換の際にはいずれも英語表記を併記し、外国人登山者にもわかりやすくなるようにした。

- ア 神明水分岐(稲星山・久住山・中岳・南登山口方面分岐)
- イ 前セリ分岐(今水登山口・風穴・岳麓寺登山口方面分岐)

(3) 登山道についての情報収集・情報提供

- ・登山者から寄せられた登山道についての情報を集約し、環境省、林野庁、大分県等の関係機関に提供した。寄せられた情報は、倒木、スズメバチ、道標についての要望等である。また、登山道の状況については、一般の登山者などから主に電話で多くの問い合わせがあり、これらについても丁寧な対応を心掛けた。

2. 長者原周辺の美化清掃活動

(1) 清掃業務

- ・長者原公衆トイレについて、職員による日常清掃を行った。ミヤマキリシマの時期・夏休み中・紅葉の時期などには1日に2回点検や清掃を行うなど対応を強化し、常に清潔なトイレが保たれるよう努めた。また、消臭剤を各便器に設置し、悪臭の改善に努めた。さらに、2月に特別清掃（便器のやすりがけ、スケールの除去等）を実施した。



トイレの日常清掃業務



トイレ床のブラシがけ



便器の清掃

(2) 園地管理業務等

- ・長者原園地、駐車場及びその周辺において、ゴミ拾い等の清掃活動の他、管理者である環境省等による維持管理を補助する形で、植栽の剪定や草刈り、芝刈り作業を随時実施した。また、タデ原周辺の自然歩道脇の草刈りを随時実施した。
- ・長者原園地周辺の落ち葉の清掃を行った。
- ・積雪時には駐車場の白線が見えなくなるので、通路にコーンを設置して利用者の混乱を防いだ。
- ・牧ノ戸峠駐車場および登山口においては、大分県による管理を補助する形で、随時ゴミ拾いをを行った。



駐車場のごみ拾い



ビジターセンター前の草刈り

(3) タデ原湿原木道の保守業務

- ・3月末に実施されるタデ原の野焼きに備え、タデ原湿原木道が延焼しないよう、協議会会員等と協力して11月14日に木道の周囲の防火線切りを行った。11月24日、27日、12月2日に草寄せの作業を行った。
- ・タデ原湿原木道を随時巡回し、異常個所がないかどうか確認するとともに、ゴミ拾いをを行った。



防火線切り作業



草寄せ作業

V. その他

1. くじゅうファンクラブ賛助会員・寄付制度

(1) 賛助会員制度

- ・平成 28 年度にくじゅうファンクラブの賛助会員制度を立ち上げ、パンフレットの配布等で会員を募った。団体会員の募集については、今年度は特に竹田市側での広報活動に重点を置いた。
- ・賛助会員数 平成 30 年度末現在：個人会員 51 件、団体会員 6 件。
(参考：平成 29 年度賛助会員 個人会員 40 件 団体会員 5 件)

(2) くじゅうファンクラブ募金箱の設置

- ・くじゅう地区管理運営協議会の会員および賛助会員の関係施設のうち、賛同していただいた施設に募金箱を設置し、協議会活動への支援を募った。募金総額は 39,512 円となった。
- ・くじゅう連山の環境保全を呼びかけるチラシを配布し、寄付を募った。個人からの寄付が 1 件、団体からの寄付が 3 件あり、寄付金の合計は 136,290 円となった。



2. タデ原湿原における有償ガイドプログラム作り検討会議

- ・タデ原の適正な利用と保全を目的として、関係者による「有償ガイドプログラム作り検討会議」を開催し、タデ原における寄付金付の有償ガイドプログラムの導入について検討した。
- ・10月17日(水)、11月26日(月)、2月25日(金)の全3回
(2回分は環境省満喫プロジェクトおよび大分県によるエコツーリズムアドバイザー派遣制度を利用)

3. 職員研修実績

① 普通救命講習

開催日時：平成 30 年 4 月 24 日 参加者：種村、福原、渡辺

概要：AED の使い方や、応急処置などの普通救命講習を受講したものの。

②刈払機取扱い作業安全衛生教育

開催日時：平成 30 年 7 月 18 日 参加者：大島、福原

概要：刈払機の使用方法や点検・整備に関する講習を受講したものの。

③ モニタリングサイト 1000 里地調査 調査講習会・全国交流会

開催日時：平成 30 年 11 月 3 日～4 日 参加者：大島

概要：日本自然保護協会が主催する、愛知県名古屋市で開催されたモニタリングサイト 1000 里地調査講習会及び交流会に参加したものの。「九重の自然を守る会」が費用を負担。

④ 平成 30 年度ビジターセンター意見交換会

開催日時：平成 30 年 12 月 4 日～5 日 参加者：種村、大島

概要：EPO 九州が主催する、熊本県水俣市で開催された、九州管内のビジターセンター担当者が一同に会するビジターセンター意見交換会（研修）に参加したものの。

⑤ 第 8 回大分自然環境研究発表会

開催日時：平成 30 年 12 月 15 日 参加者：大島

概要：大分大学で開催された、大分県内の自然環境の研究についての報告会に参加したものの。

⑥ 長崎県内ビジターセンター視察

開催日時：平成 31 年 2 月 21 日～22 日 参加者：大島

概要：長崎県の平成新山ネイチャーセンター、雲仙諏訪の池ビジターセンター、九十九島ビジターセンターを視察し、施設の運営体制や研修体制及び地域の観光案内施設との連携などについて研修したものの。

⑦ 大山隠岐国立公園視察

開催日時：平成 31 年 3 月 5 日～7 日 参加者：種村

概要：全国でも先駆けて公園施設の利用者負担制度の導入や、ツアー商品の造成など観光との連携を行っている大山隠岐国立公園の各施設の視察を行ったものの。

⑧ 日本生態学会第 66 回大会

開催日時：平成 31 年 3 月 17 日～19 日 参加者：大島

概要：湿地環境の保全・絶滅危惧植物の保護・外来種対策・シカ対策等について、研修したものの。

4. 新聞掲載記事

大分合同新聞→
平成 30 年 8 月 12 日 (月)

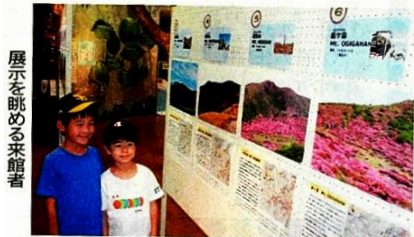
飯田小6年生10人
タデ原湿原でガイド



観光客にタデ原湿原を案内する飯田小6年生ら(九重町)

九重町の飯田小学校(時切)とラドバイスした。松本子校長、53人の6年生10人は11日、ラムサール条約に登録されているタデ原湿原(町内田野)で、オリジナルのガイドブックを手に、観光客に「ガイド」を体験させた。タデ原湿原(町内田野)で、オリジナルのガイドブックを手に、観光客に「ガイド」を体験させた。タデ原湿原(町内田野)で、オリジナルのガイドブックを手に、観光客に「ガイド」を体験させた。

長者原ビジターセンターで企画展
くじゅう連山 1 番人気の場所は？



展示を眺める来館者

夏山シーズンに合わせて、九重町田野の長者原ビジターセンターで、企画展「くじゅうMVP」『くじゅうでいちばん』の山を選ぶ「くじゅう」が開かれている。9月上旬までの予定。くじゅう連山の「中岳」

大分合同新聞→
平成 30 年 8 月 23 日 (金)



ごみを拾う「自然公園クリーン作戦」の参加者=九重町

飯田高原一帯を清掃。環境省阿蘇くじゅう国立公園くじゅう管理官事務所と九重町は町内の飯田高原一帯を清掃する「自然公園クリーン作戦」を実施した。九重の自然を守る会や町観光協会など20団体から約190人が参加。県道別府一宮線沿いなどで、空き缶やペットボトルなどを拾った。九重の自然を守る会や町観光協会など20団体から約190人が参加。県道別府一宮線沿いなどで、空き缶やペットボトルなどを拾った。

大分合同新聞→
平成 30 年 8 月 10 日 (土)



県警などが呼び掛け

登山者にマナー向上などを促す「登山ミニレクチャ」が28日、九重町湯坪の牧ノ戸峠登山口であった。長者原ビジターセンターを運営する「くじゅう地区管理運営協議会」の主催で5回目。同センターや県警などから14人が参加した。紅葉シーズン真っただ中のくじゅう連山へ向かう登山客に、服装点検や登山届の提出、山のトイレの利用などを呼び掛けた。センター職員の大島和伸さん(49)は「登りやすい山だと甘く考えず、スケジュールや目的地などきちんとした計画を立ててほしい」と話した。

↑大分合同新聞
平成 30 年 10 月 31 日 (木)



土のうを敷き詰める生徒

くじゅう登山道整備。玖珠美山高校の地域産業科3年生は5日、くじゅう連山の登山道を整備した。卒業記念の一環。生徒24人と環境省、九重の自然を守る会、くじゅうネイチャーガイドクラブなどの指導スタッフ計約50人が参加。長者原ビジターセンターで開会式があった。後、生徒らは木材やスコップを持って山を登った。長者原から諏訪守越線の約2500坪を整備。傾斜の急な場所や崩れた部分に木材を打ち込み、土のうを敷き詰めた。生徒らは木材やスコップを持って山を登った。

↑大分合同新聞
平成 30 年 11 月 16 日 (土)

き詰めたり、ササや枝などを除去した。徳永和真さん(18)は「九重町田野は「登るのが大変だった。利用者にはげのないように山登りを楽しんでもほしい」と話した。

5. 地域の概要

阿蘇くじゅう国立公園は、九州のほぼ中央に位置し、周囲約 100km に及ぶ世界最大級の阿蘇のカルデラ地形と、その北東部に連なるくじゅう火山群、由布岳、鶴見岳からなる、火山地形と草原景観が特徴的な国立公園である。その中でも、くじゅう地域は「九州の屋根」とも呼ばれ、1700 m 級の峰が連なり、初夏はミヤマキリシマの花、秋は紅葉で山々が彩られる。また、山間の坊ガツル湿原・タデ原湿原は、国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録されており、山麓の飯田高原・久住高原などの広大な高原と並び、湿地性・草原性の多様な草花や野鳥・昆虫など多くの動植物の貴重な生育場所となっている。

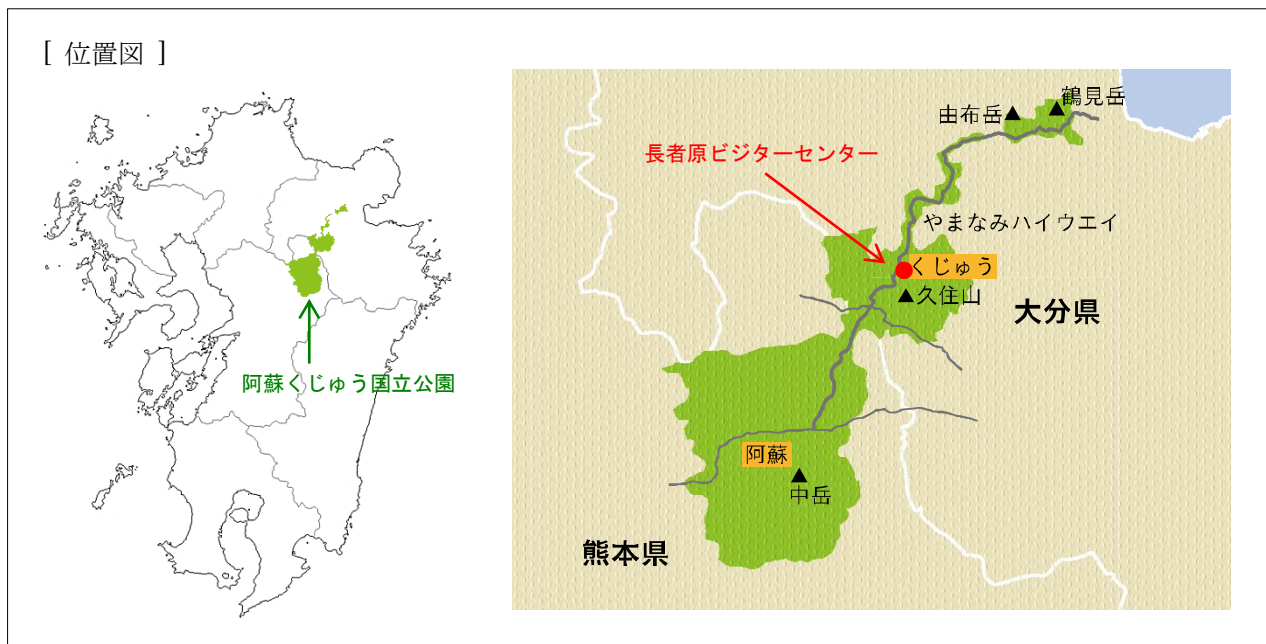
長者原ビジターセンターは、通称「やまなみハイウェイ」と呼ばれる、阿蘇と別府をつなぐ県道 11 号線沿いの大分県九重町長者原地区にあり、くじゅう地域の拠点施設として利用されている。センターの眼前にはタデ原湿原が広がり、設置された木道を歩くと、四季折々の自然を肌で感じることができる。



くじゅう連山（ミヤマキリシマ開花期）



タデ原湿原



阿蘇くじゅう国立公園

指定：1934年（昭和9年）

公園面積：72,678ha（くじゅう地域 18,310 ha）

6. 運営体制

事務局

九重町役場 商工観光・自然環境課内

職員（くじゅう地区管理運営協議会 事務局職員）

種村 英大（たねむら えいだい） 事務局長

大島 和伸（おおしま かずのぶ）

福原 弘紀（ふくはら ひろき）

渡辺 彩花（わたなべ あやか）

くじゅう地区管理運営協議会の構成

環境省、大分森林管理署、大分西部森林管理署、大分県、九重町、竹田市、九重の自然を守る会、大分県立社会教育総合センター九重青少年の家、九重・飯田高原観光協会、筋湯温泉観光協会、釜ノ口温泉観光協会、NPO 法人竹田市観光ツーリズム協会、学校法人福岡大学（福岡大学やまなみ荘）、株式会社おおいた観光サービス（オーベルジュ・コスモス）、飯田高原観光株式会社（長者原ヘルスセンター）、やまなみ観光株式会社（レストハウスやまなみ）、有限会社みやま商店、寒の地獄株式会社（寒の地獄旅館）、有限会社星生温泉（九重星生ホテル）、株式会社まきのとコーポレーション（九重観光ホテル）、九重ヒュッテ、株式会社エルランチョ・グランデ、有限会社牧ノ戸峠レストハウス（牧ノ戸売店）、九重町飯田農業協同組合（飯田高原ドライブイン）、有限会社法華院温泉（法華院温泉山荘・法華院温泉別館花山酔）、有限会社くじゅう倶楽部、九重森林公園株式会社（九重森林公園スキー場）、株式会社橋本建設（スパ・グリネス）、株式会社ア・マ・ファソン（オーベルジュ・ア・マ・ファソン）、株式会社星野リゾート（界 阿蘇）、飯田高原デザイン会議、一般財団法人セブン・イレブン記念財団（九重ふるさと自然学校）、NPO 法人久住高原みちくさ案内人倶楽部、有限会社吉武建設（くじゅうやまなみキャンプ村）、NPO 法人くじゅうネイチャーガイドクラブ（敬称略・順不同）

くじゅう地区管理運営協議会賛助会員

九州電力株式会社（八丁原発電所）、九州林産株式会社林業部、福岡県中学校体育連盟、福岡県高等学校体育連盟、有限会社ゆふいん道の駅（道の駅ゆふいん）、一般財団法人久住やすらぎ観光公社（国民宿舎久住高原荘）（敬称略・順不同）



くじゅう地区管理運営協議会(くじゅうファンクラブ)

【事務局】九重町役場商工観光・自然環境課

【事務所】長者原ビジターセンター

【住所】〒879-4911

大分県玖珠郡九重町大字田野 255-33

【電話】0973-79-2154

【ホームページ】<http://kujufanclub.com/>

【Facebook ページ】<http://www.facebook.com/choujabaruvisitor/>

長者原ビジターセンター

【住所・電話】上記に同じ

【開館時間】9:00～16:00（5～10月は9:00～17:00）

【休館日】年末年始（12月29日～1月3日）のみ

【入館料】無料

発行 / 平成31年3月31日